

山行報告書

京都田辺山友会

報告者園上 雅晴

山名	十三石山	山行名	例会			
ルート	二ノ瀬駅→夜泣峠→畑の在る広場→トレイル60→十三石山→氷室神社→京見峠					
山行日	平成27年4月26日	天候	晴れ			
参加者	リーダー：園上 サブリーダー：伊藤（典） 男性：津田、坪田、藤村、上田（昌） 女性：玉井、上田（秀）、永田、江平、伊藤（多恵子）、岡本 合計：12名					
ルート概略図 二ノ瀬駅→守谷神社→夜泣峠→府道61号横断→「北山56」→畑の在る広場→盗人谷2の橋→トレイル60満寿峠→トレイル62→十三石山頂上→氷室神社→京見峠→峠の茶屋跡→鷹峯→衣笠バス停	コースタイム					
	地名		時：分	地名		時：分
	(嵐電) 二ノ瀬駅	着	8:50	十三石山頂上	着	13:05
		発	9:01		発	
	峠の前	着	9:32	氷室神社	着	14:00
		発			発	
	トレイル52	着	10:48	鷹峯源光案	着	15:00
		発			発	17:16
トレイル62	着	11:47				
	発					
昼食	着	11:57				
	発	12:30				
<p>絶交の好天気になり、登山としては最高の気候の恵まれました、二ノ瀬駅から守谷神社の前でSL伊藤さんの号令で準備体操、夜泣峠手前までは順調でしたが畑の在る広場の手前、向山分岐で道間違いをする、道標を読み間違ったようでした、途中から人家の街並みと子供の声が近くに聞こえ、道間違いに気付く府道61を右折して「北山56」に戻り畑の在る広場に入り一服、ここからは順調に行軍トレイル58更にトレイル60「満寿峠」を少し登ったところで昼食を摂るそこから沢筋を登り、平坦道を歩き最後の登りを登り切ったところが十三石山頂上東山方面が開けており眺望を楽しむ、登った道を下り途中からトレイル63に合流、そこからはコンクリート道が続く、氷室神社で一服しアスファルト道をひたすら京見峠へ、峠の茶屋は閉鎖されており往時の面影はなかった、「長坂越千束」の標識から林道アスファルト道を更に登ったり下ったりし最後は「源光庵」へは行かず金閣寺の方へ歩き衣笠のバス停で解散する。</p> <p>氷室神社から1時間ほどはアスファルト道であり余計に疲れが出た感じ、それとCLである私が水分を取らずにいたので脚攣りを起こしたが水分補給して間もなく治ったが夏場の登山の水分補給の恐ろしさを再認識しました。</p> <p>道間違いは里山でしたので大事には至りませんでした（人家が近くにあったので）10分位気が付かず、結果は走行距離は変わらずでしたが、反省しました。</p>						
ヒヤリハット 道間違い10分						

感想文

十三石山・初めての SL 担当

伊藤典子

山行希望アンケートに「十三石山」と書いたのは、京都新聞出版センター発行(2007年)の『京都滋賀 日帰り山歩(さんぽ) 50選』というガイドブックから面白い山名を見つけ、“市街地からほんの少し足を延ばせば到達することができる別天地であり、歴史、自然、展望に恵まれ、心楽しく歩けるコース”だという案内に魅かれて選んだからです。気軽に簡単に歩けるものだと思っていたら大間違いでした。

当日は超快晴の絶好の登山日和、初めての SL 担当です。まずは常に一番後ろに居て人数確認を心がけました。そしてプレッシャーだった準備体操。「各自適当に体操してください」って言ってもらえないかなと期待したけれど、二ノ瀬駅から数分の神社に立ち寄り、「皆さん伊藤さんに注目！」って言われてさらに緊張しました。体操のお姉さん(?)になった気で、何とか頑張りましたが、恥ずかしかったです。

山行計画とよく似たコースをネットで探し、簡単な地図をコピーして持って行きましたが、実際に歩くと何の役にも立ちませんでした。しかも、あまり人気がない山なのか、しっかりした踏み跡がない個所や、綺麗だったはずの丸太道や丸太の橋も朽ち果てていたりして、何度か道間違いがありました。幾つも登山ルートがある山は中々難しく、やはり下見は必要だったと思いました。そして読図もできなければと実感しました。どうしても敬遠しがちで、まだまだ人に頼ってばかりいる新人(こういう時は強調!)です。

何はともあれ、最高のお天気に感謝、山の新緑がとても綺麗でした。山肌に見えた藤の花の淡い紫が美しく、満樹峠から十三石山頂上に向かう道中に少しだけ咲き残っていた三つ葉ツツジが可憐で、京見峠の茶屋近くには満開の八重桜(ぼたん桜)が見応えありました。京見峠から衣笠のバス停までアスファルトの道を延々と歩きましたが、隊がバラけてしまい、最後までまとめられなかったことを CL、SL で反省しながら最後尾を歩いた次第です。

今回の山行では、初めて先頭と最後尾を歩きました。一番後ろを歩いていると皆さんの様子が見られ、調子などから休憩を取るタイミングが計れると思いました。そのため的人数は 10 人が限度かなと思います。また、先頭を歩くときは、道を確認しながらはもちろん、後ろの人の息遣いや話し声なども気にしながら、時々振り返って歩くスピードを調整することを教わりました。けっこう難しいです。貴重な経験でした。何より皆さんのご協力で無事山行を終えられて本当に良かったです。ありがとうございました。これからもどうぞよろしくお願いします。

